

法・商両執行委員会の「学苑 会問題解決への道」への見解

學苑會中央執行委員會

卷之二

八三

「アーリーのナッシュアーティスツが開いた音楽会場で、黒崎天君の「黒崎アーティスツ」に対して、君達は、陰陽銀行員会は、「それは黒崎アーティスツが貴様のまつたくの個人的行為でござり、一切の船積の効力もござりません」といつてゐる。それは、この間一貫して我々及び全二部学生に対する所詮が、して虎頭に立つて誠意にして「黒崎」への君達の船積か、らの袋切り行為を憲禁し、かつまた、「黒崎」を皆我等のものとして推してゐた君達は、「黒崎」を推して子供にいたる対して自己批判的免責などなげられながらしてゐる。しかしナッシュアーティスツの間で「黒崎」

どうおお「全共斗運動」は不適であり、今後もまた不適である。しかししながら、我が明大において、ついに「全共斗」は創出できねがつた。君達より、君達のいう「全共斗」とは一体何を意味するか、実体的に教えてくれよ。君道より、「全共斗運動」へと見て、君達は、君達は「学生」「人間」として「全共斗運動」へと祀れ返したことがあるのだらうか? 自らの「学生」としての存在を根拠源にしてこの存在、否、「人間」としての存在を根拠源にして祀る所うとした。「全共斗運動」を。一人一人の主体性を發揚せしめていく「全共斗運動」だ。『全共斗運動』の中にこそ、眞の民主主義は存在する。君達にはわかるまい。路教に反対する者は全てアーティストだと

慶應義塾は、法・商・医学等大念について述べておきたが、
慶應は、あの「澤次実習問題」と同じことをしているの
だ。法部の学生大会に於いては、執行委員は一人し
かねず、三のうちの一人は必ず委嘱して置いて、
教官は全く隠れを出さず、その日にヒヨコ隠れを出
すといふ、全くもって、学生会事務にして、ゆきりつ
てゐる。者は、意図的に實行委員を、白らの宗派
的私情化したのを隠せんとするのか。御用委員会に、二人
しかいない、という現実の前にうろたえていたのは、君
達でなかつたのか？ 商部部においては、最初から流派
を定められたのは君達でないか？ たゞ、
我々は、君達を徹底的に撲滅していくことを、全

中教審大學檢碎
入管体制粉碎！

がう「自己社判書」を書いたのである。その報告としておきにと想う。
べづく見せよ

「おはようございます。再びあの「ヒ・リーニー」の事実を述べさせて貰いたい。同時に、当時の「海軍執行部」と我々経営正直部との間に、「小島执行部」との関連性を明確化していくべきだ」と思ふ。」
あの酒呑商さき」、一九六八年二月三日の「アッチャアザ
ス」、「第三回」になしては社説的であつた。現在ま
るに、この話はよく使われる筆の中には、「全般を想
考」という言葉がある。そして、意証的にされば使用
している様に認める。去年、出版された「金二郎井斗
」は最初から序章としていたが、私は稿を当初から
「第三回」になしては社説的であつた。現在ま

アシエラ
東8号
1995.10.3